

## 東光西風

## 進化するAIが社会を変える

## AIは人間の本質まで代替することはできない

AIの利用で業務効率化やコスト削減などが実現し、社会は大きく変化している。さらには、人間が一つひとつ指示を出すのではなく、AIエージェントという、「目的だけを伝えると、仕事を分解して自律的に動く」存在が登場している。このような社会だからこそ、人間の本質が強く問われている。

## AIの進化が止まらない

近年、自ら手順を考えて作業を進める「AIエージェント」の進化には、本当に目を見張るものがある。私自身、普段は大学の教壇に立ち、土木の構造力学を教えているが、最近このAIを活用して専門的な教科書を執筆する機会があった。

これまでであれば、構成を練り、専門

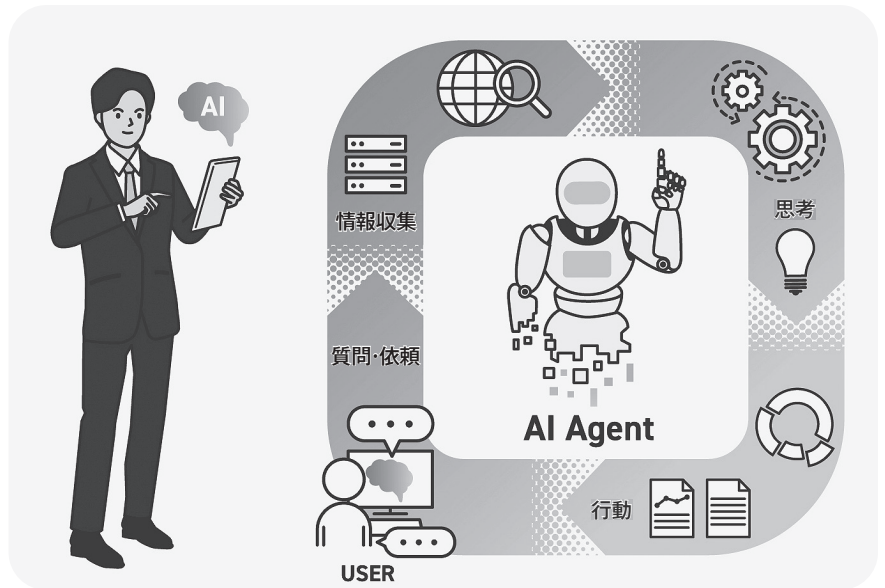
的な内容を整理して文章にまとめるまでに、膨大な時間と労力を要した高度な作業が、驚くほど効率的、かつ効果的に進められたのである。かつては不可能だと思っていたレベルの専門的な仕事が、AIという新しい道具によって、いとも簡単に実現できる時代になったことを、実務を通じて肌で感じる出来事であった。

さらに技術の進化は止まらず、今やAIはこの世界の物理現象や社会の動きを高精度に予測して再現する「世界モデル」

と呼ばれる領域にまで達しつつある。近い将来、人間が思いつくようなアイデアや、表面的な感情の動きすらも、AIは完璧に真似ることができるようになるだろう。

## 物事の本当の価値を見極められるか

しかし、AIがどれほど賢くなり、私たちの生活を劇的に便利にしてくれたとしても、人間の「本質」までを代替する



ことは決してできないと私は確信している。なぜなら、AIが計算し予測できるのは、あくまで過去に蓄積された膨大なデータという表面的な結果に過ぎないからだ。人間の心のずつと奥底にある、理屈や統計では決して測ることのできない

スマートフォンと家電をつないで遠隔操作をするだけでなく、AIエージェントと家電をつなぐと、生活パターンを学習しながら「家電の稼働を住人に最適化させていく」ことができる。日常生活を支え、より快適なものへと進化している。

深い領域までは、どんなに最先端の技術をもってしても見通すことはできないのである。

これからの時代、複雑な作業や情報処理そのものは、人間よりもAIの方がはるかに上手くこなすようになるだろう。それに伴い、私たち人間の役割は、「知識をどう処理して作業するか」から、「何を大切にし、どう決断するか」へと変わっていくだろう。AIが提示したいくつもの完璧に見える答えの中から、どれが本当に社会のためになるのか、人間が人間らしく暮らしているのかを評価し、選び取る力が必要になる。物事の本当の価値を見極める豊かな「目」を養うことこそが、これからの私たちに求められる一番の仕事になるだろう。

AIという圧倒的な能力を持つ道具を使いこなすためにこそ、それを使う人間自身が、物事を正しく判断できる器へと成長していかなければならないのだ。

## 正しい判断力を養うために

では、その人間としての決断力や、物事の価値を見極める目は、どのように育んでいけばよいのだろうか。今までのように、単に新しい知識やスキル（技術）を詰め込むことでは決して得られない。

日々の忙しさや目先の効率から少しだけ離れ、自分の内側とゆっくり向き合うこと。自分の損得感情を一度手放して、他者の幸せやより良い社会はどのように実現していけば良いか、といった大きな願いを持って、自らの思いを澄ませしておくことが必要だろう。そうして自分自身を安定させた上で、初めて現実の社会で人間らしい正しい判断を下し、AIを駆使しながら具体的な作業を重ねていくことができるようになるだろう。

すべてが予測され、計算し尽くされていく世界だからこそ、データ化されることのない大欲や使命感などを起点に行動することが大切になる。静かに心を澄ませて、不可視化された自らの人間力を整える時間が、現実には生きる私たちにとって重要な時代となるだろう。（山本亨輔）